

対セントルシア無償資金協力（保健・医療関連機材の調達）署名式

2021年5月28日

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

5月28日、ニューヨークの国際連合日本政府代表部において、供与額2億円の保健・医療関連機材のための無償資金協力（「経済社会開発計画」）に関する署名式が行われました。本計画は、セントルシアに対し、保健・医療関連機材を供与することを通じて、同国の感染症対策及び保健・医療体制の強化に寄与することが期待されます。

石兼公博日本政府代表部常駐代表及びコスモス・リチャードソン・セントルシア代表部常駐代表との間で書簡への署名、交換が行われ、平山大使はトリニダード・トバゴから、また、セントルシアから、シモン外務省副次官、エマニュエル経済開発・貿易・民間航空省次官、エミール保健省次官代理がオンラインで参加しました。

石兼大使は挨拶の中で、共通の価値観に基づく日本とセントルシアの強固で長年にわたる協力関係を強調し、自然災害や気候変動といった日本とカリコム諸国に共通の課題について言及しました。更に、新型コロナウイルスの感染拡大は全世界が直面している最大の危機であり、日本はカリブ公衆衛生庁（CARPHA）やCOVAXファシリティを通じてカリコム諸国への支援を行ってきた、この無償資金協力は、日本のセントルシアに対する友好関係の強化を示す証左であり、供与される機材が効果的かつ効率的に活用されることを願うと述べました。

リチャードソン大使は、1980年の外交関係樹立以来、両国はその友好関係を強化してきた、両国の協力関係は、JICAや海外協力隊（JOCV）を通じて強固なものとなっていると述べ、新型コロナウイルスの感染拡大による未曾有の世界的な課題に対し、日本政府がCARPHAやCOVAXファシリティを通じてカリコム諸国への支援を実施していることに、称賛の意を表しました。また、このような困難な状況における支援に関しセントルシア政府を代表し日本政府に感謝する、この支援は日本とセントルシアの協力の新たなフェーズを先導するであろうと述べました。

日本政府は、今後ともカリブ各国との友好関係と相互理解を促進し、小島嶼国特有の脆弱性の克服を図るため、防災、環境、エネルギー、廃棄物管理及び水産分野に対する支援を実施していく考えです。

お問い合わせ

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

経済・開発協力班

Tel: +(1-868)-628-5991

E-mail: ecocoop@po.mofa.go.jp



左上：石兼大使とリチャードソン大使、右上：平山駐トリニダード・トバゴ大使
 左下：シモン外務省副次官、ポリアス外務省日本担当官、右下：エミール保健省次官代理



石兼大使とリチャードソン大使による署名



署名後に握手を交わす石兼大使とリチャードソン大使